

令和 6 (2024) 年度 学校安全 総合支援事業

危険を予測し、回避する能力を身に付け、
自分を守る行動ができる
児童生徒の育成を目指して



モデル地域：さくら市
MODEL : SAKURA CITY

《拠点校》さくら市立喜連川小学校
《協力校》氏家小学校、押上小学校、熟田小学校、
上松山小学校、南小学校、氏家中学校、喜連川中学校



事業概要

令和6年1月1日、午後4時10分頃、石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する大地震が発生しました。本県においては、8月24日から26日にかけて、県内の広い範囲で大雨となり、26日未明には線状降水帯が発生しました。大雨により土砂災害、浸水害が発生し、建物等の被害、交通障害(鉄道の運休や道路の通行止め)、広域に及ぶ停電被害にもつながりました。幸いなことに人的な被害はなかったものの、改めて、「自然災害は時と場所を選ばず起きる」ことを痛感させられました。防災教育を実施する上では、単なる情報提供や訓練に終始するのではなく、地域の過去を知り、現在を把握し、未来へつながる地域防災力を再考していくことで過去の災害を風化させないことにつながります。

今年度も、さくら市をモデル地域として、昨年度の研究実践を踏まえた上で、地域性に応じた防災教育に取り組んでき

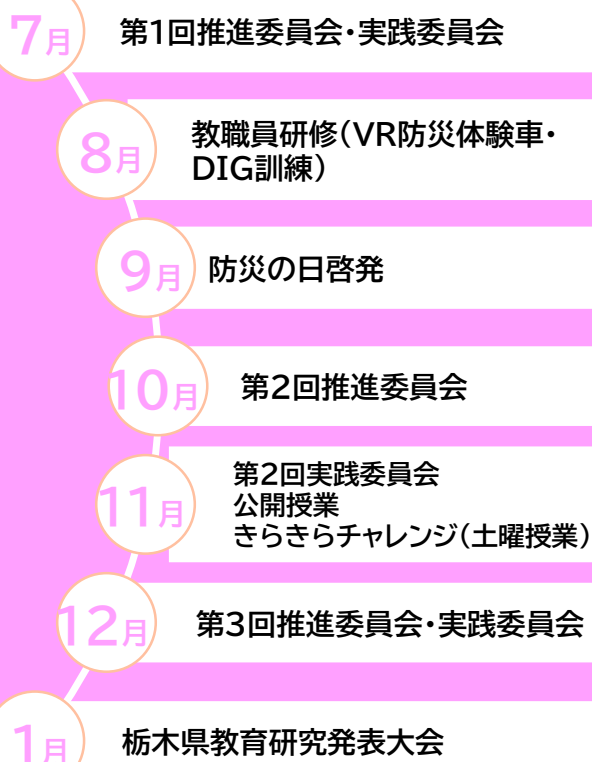


ました。その内容としては、本市でも過去に被害を受けた水害を中心とした様々な災害について「日常的な指導」「定期的な指導」「特設した安全教育」を行う中で、地域や保護者、関係機関と連携を図ることで、児童生徒が自らの命を守り抜き、安全で安心な生活や社会を実現するために主体的に行動する態度を育成し、将来の防災力を高められるように実施しました。

事業を進めるにあたっては、中核的に取り組む学校(以下、拠点校)と拠点校をサポートしながら実践の効果を自校化することに努める学校(以下、協力校)において、一時的に危機に対処するだけでなく、主体的に探究する過程の中で、危険を回避する能力を身に付けられるよう計画的・系統的な研究の充実・深化を図りました。



事業の流れ



第1回実践委員会



教職員研修会

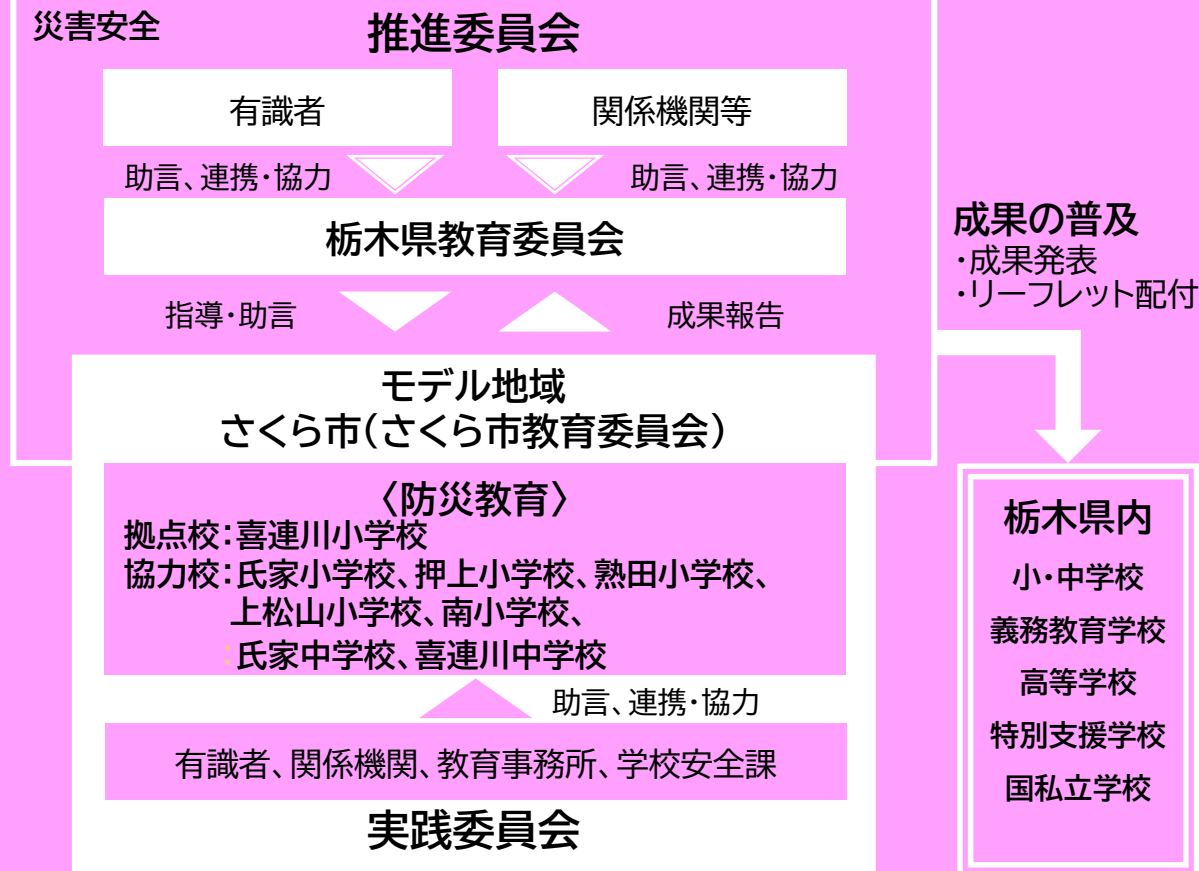
実践委員

宇都宮大学地域デザインセンターコーディネーター

栃木県防災士会理事
さくら市消防団 団長
さくら市立喜連川小学校PTA会長
さくら市総務課 危機管理係長
さくら市立各小中学校 学校安全担当教諭
8名他
※敬称略

土崎 雄祐
(委員長)
神永 陽子
土屋 恭則
高田 裕亮
井上 拓俊
8名他
※敬称略

事業体制



モデル地域の取組

目指す児童生徒の姿

日常生活から有事の際における児童生徒の望ましい姿として
「自ら適切に判断し、主体的に行動できる
資質・能力を備えた児童生徒」

研究の方法1 児童生徒の安全に関する資質・能力の向上

- 🔗「自分と周囲の命を守ることを軸に」
- ①「命を守る」
 - ②「地域を知る」
 - ③「つながる」

児童生徒が主体的な姿勢で防災に向き合い、地域の過去を知り、現在を把握し、未来へつながる地域防災力の向上を目指す。

研究の方法2 教職員を含めた人的物的環境の整備

- 🔗「将来の防災力の育成」
- ①教職員研修
→VR防災体験車(風水害・地震・火災)
「仮想空間」から「現実空間」へ
→DIG訓練
防災意識を掘り起こす
 - ②防災教育の体験活動
→学校での学びを日常生活へ
日常生活の学びを地域社会へ
地域社会の学びを学校へ

拠点校 喜連川小学校の取組

全校児童 391人(R6.12.2)

キラリン



【研究主題】

本校は洪水浸水想定区域であるため、風水害や土砂災害に対し、消防署や消防団、市の総務課危機管理係、防災士の方々などの地域の教育資源を生かし、「**自らの命を守り抜き、安全で安心な生活や社会を実現するための防災教育**」の推進に向けて、「地域に学ぶ」「地域で学ぶ」「地域を学ぶ」のスパイラルを好循環させ、未来へつながる地域防災力を再考し、課題意識をもち主体的に探究する過程の中で、危険を予測し、回避する能力を身に付ける。

低学年(1・2年生)

自ら危険な状況に気付き、きまりを守って安全な行動ができる児童の育成

5/15(wed)

交通安全・ミニ防犯教室



徒歩通学とスクールバス通学の並存を踏まえ、日頃から留意すべき知識やスキルを身に付ける。

【1・2・3年】道路の正しい渡り方

交通安全の決まりを理解し、安全な登下校を学ぶ。

【4・5・6年】自転車の正しい乗り方

正しい道路歩行や自転車の乗り方を学ぶ。

【全学年共通】ミニ防犯教室

日常生活の中に潜む様々な危険を予測し回避するポイントを学ぶ。

児童の振り返り

歩道に広がらないようにして登下校したい。

中学年(3・4年生)

危険な状況の原因を考え、自ら危険を回避するための適切な行動ができる児童の育成

8/1(thu)

校内教職員研修



VR防災体験車



DIG訓練

教職員の学校安全に関する資質向上を図る。

①VRの技術を活用して地震、火災、風水害を疑似体験することで、防災意識の高揚につなげる。(仮想空間)

②ハザードマップの活用を学び、DIG訓練で、災害を知り、地域を知り、地域の人を知り、実際の災害が発生した時に実効性のある対応がとれるように共通理解、共通行動を図ることを意識づける。

教職員の振り返り

現実空間でも発生する可能性があることを考えさせたい。

高学年(5・6年生)

原因や状況に応じて自ら判断し自他の安全を守るために適切な行動ができる児童の育成

11/7(thu)

着衣水泳教室 喜連川B&G海洋センター



水遊びやマリンスポーツは楽しい一方で、一歩間違えると命を落とす危険性もある。防災教育の一環として、水辺で自分を守ること、人を助けることの正しい知識を身に付ける。

【2年1・2組】着衣泳やライフジャケット浮きの体験

①「慌てずに、浮いて、待つ」ことを学ぶ

②楽しみながら安全を考えて行動できる能力を身に付ける。

ライフジャケットの利便性(スポーツ振興課職員)
浮力、保温能力、衝撃保護、反射板(発見しやすい)

11/1(fri)

公開授業 3年生(ゲストティーチャー) 6年生(VR防災体験車・止水板等)



1校時【6年1組】総合的な学習の時間

VR防災体験車・止水板・土のう体験
(消防署・市総務課危機管理係との連携)

2校時【3年2組】学級活動

「学校のまわりをたんけん(大雨が降った時、危険な場所は?)」

3校時【6年1組】理科

「災害にどう備えるか?」

*6年2・3組は2・3校時でVR防災体験車・止水板・土のう体験

実践委員の振り返り

水害があると水位がどのくらいになるか、校舎の写真で分かりやすく説明されていた。

11/9(sat)

きらきらチャレンジ(保護者・地域との連携)



災害時を想定した、炊き出し体験や消防団の体験を通して防災意識の向上を図る。

【4～6年】炊き出し体験をしよう(市内の栄養教諭・栄養士との連携)

炊き出しステーションを活用し、「おにぎり」、「豚汁」の調理実習

【3～6年】消防団体験をしよう(地域の消防団・市総務課危機管理係との連携)

防火服を着用し放水訓練、避難所用パーテーション設置体験とベッド組み立て、簡易トイレ設置

協力校 氏家小学校・押上小学校・熟田小学校・上松山小学校 南小学校・氏家中学校・喜連川中学校の取組

実践委員会に参加した中核教員が、それぞれの所属校において、「**将来の防災力を高める**」をテーマに学校安全に関する取組を実践した。

氏家小学校



全校児童703人



大志ちゃん

水難事故防止講習会

5・6年生を対象に講師の方を招いて、万が一水難事故に遭ったときの行動について考え、学ぶことができた。実際の水難事故の様子やその予防法について理解を深め、ランドセルを用いて浮く姿勢をとることや、浸水したときの安全な歩き方などを体験することができた。

児童からは、「実際の水難事故に遭ってしまったときには、この講習会を思い出して、冷静になって命を守る行動につなげていきたい。」等の感想があった。

押上小学校



全校児童100人



おしビョン

引き渡し訓練

暴風や竜巻発生時を想定した、シェイクアウト訓練を行った後に、児童引き渡し訓練も実施した。訓練では、「災害に対する知識を身に付け、自分の身を守る避難行動を意識して、安全に行動することができた。」等の感想があった。

また、児童引き渡しでは、訓練を通して、よりスムーズに保護者に引き渡すための手立てを教職員間でシミュレーションしながら考えたことにより、共通行動が図れた。災害発生時から一連の流れをイメージした訓練により、職員や児童、そして保護者の防災意識が高まった。

熟田小学校



全校児童144人



つきやまくん

着衣水泳

7月9日(火)に5・6年生を対象に着衣水泳を実施した。体育館で水の事故について学んだ後に、プールに移動し「浮いて待つ」の実践で、背浮きを行った。水泳の授業で背浮きができる児童は多いが、着衣状態ではいつもどおりにはできず、災害に遭った時に「浮く」ことへの困難さを体感できた。

体験後の児童の振り返りから「水害に遭った際に自分の命を守る方法を知っただけでなく、水に関する災害や事故の恐ろしさを知ることができた。」という感想が多くあった。

上松山小学校



全校児童513人



まっぼん

想定外避難訓練

放送機器の故障、通常どおりの避難経路が危険なために通行できないという、普段は想定していないイレギュラーな条件を再現した。

特に以下の2点を重点化して実施した。

- ①緊急時の職員室での対応
- ②児童の避難方法

今回の訓練で、職員間で災害時の動き方について、今までよりも議論が生まれ、課題意識を高められた。今後も議論のある避難訓練を続け、職員も児童も主体的に取り組める実践を続けていきたいと考えている。

南小学校



全校児童606人



モリニコ

竜巻を想定した避難訓練

6月19日(水)の朝の活動時に学級ごとに竜巻を想定した避難訓練を実施した。竜巻の被害について学び、対応策を知るために、シェルターをつくって避難している動画を視聴した。避難の仕方を確認したことで、緊張感のある避難訓練を行えた。

また、地震が起きたときに、自らの命を守るために瞬時に落ち着いて避難行動ができるよう、それぞれの場所(廊下や階段、各教室)ごとの避難方法について掲示し、行動の「見える化」を図っている。

氏家中学校



全校生徒1013人



氏豆くん

防災食(調理実習)

日々の安全教育として、教室移動時には、ドア・窓の開閉のルールを徹底し「防犯意識の向上」、「不審者侵入の防止」等を学校全体で取組んでいる。

今年度は、2年生の家庭科の授業で、栄養教諭の講話を交えながら、災害時における食事について考え、非常食であるアルファ米や缶パン等の紹介をし、アイラップを使用し「さばカレー」の調理実習を行った。また、「ゆめ! さくら博」の中で出展した防災力向上のブースに複数の生徒がボランティアとして参加した。

喜連川中学校



全校生徒194人



きちゅぽん

避難訓練

9月9日(月)に地震による火災が発生したことを想定した避難訓練、消防士の方を招いての消火訓練を実施した。生徒は真剣に訓練に取り組み、「自分の命が守れなかったら意味が無いので、自分の背よりも高い火のときは諦める判断をしたい。」「危険なときは、近くにいる大人に助けを求めたい。」等、自分の命を守るための行動を考えた感想が多く見られた。次年度は、「マイ・タイムライン作成」など、防災教育を取り入れ、より安全に対する意識を育成していきたい。

さくら市教育委員会



啓発など

①【10個の間違い探しに挑戦!】

9月1日(日)の防災の日に向けて各学校のHPへの記事掲載依頼。

②「学校と行政の役割」

市内教頭会で、総務課危機管理係職員と意見交換を実施した。自然災害が発生した時に、各学校の自然災害のリスク状況、学校が避難所になった時の動線の確保等について「学校と行政の役割」など。

成果と今後の取組

成果

- 教職員研修でDIG訓練を実施したことで、学校周辺の土砂災害警戒区域や、河川洪水浸水想定区域を知ることにより、地域の実態を把握することができた。
- 地域の実態を踏まえて、ハザードマップの確認や防災士の説明等で、「どのように自らの命を守っていけばよいのか」について考えることを通して、危機を回避するための知識や技能を身に付けることができた。
- 事前学習でのVR防災体験車の体験は、災害をイメージするのに効果的であった。また、総務課危機管理係の止水板や土のう等についての説明や学区内の浸水想定区域についても電柱に示されているラインを確認したことで水害への理解も深まった。
- 協力校(中学校)では、家庭科の授業において、栄養教諭と連携し、災害時の防災食について備蓄品等を紹介したり、それらを活用した調理実習を行ったりしたことで、将来、復興支援ボランティアに参加する意識の向上が図れた。

今後の取組

- 近年の気候変動の影響により、今後も想定を超えた自然災害(水害・土砂災害等)が発生するリスクが高いことが考えられ、実践的な訓練を実施する必要がある。そのため、災害の対象やレベルを変えたり、時期や方法を工夫したりして、児童生徒が主体的に判断し行動する訓練を今後も実施していく。
- 学校の立地条件や地域の実情、児童生徒の実態により、災害発生時の対応はそれぞれ異なり、児童生徒への指導は学校独自の内容が求められる。そのため、教職員の災害に対するスキル向上はもとより、より効果的かつ実践的な体験活動を検討していく必要がある。また、保護者や地域の方々をこれまで以上に巻き込めるような活動を展開していく。
- 防災教育に関する取組の中で、学校がハブ機能をもち、「学校での学びを日常生活」へ「日常生活での学びを地域社会」へ「地域社会での学びを学校」へと様々な大人が児童生徒へ関わり、つながっていくことで将来の防災力を高め持続可能なものにしていく。

栃木県教育研究発表大会

令和7(2025)年1月24日(金) 栃木県教育研究発表大会特色ある取組部会で、本事業の発表を行いました。今後も本事業で得た成果等について、県内に広く周知し、学校安全の充実に努めていきます。

推進委員

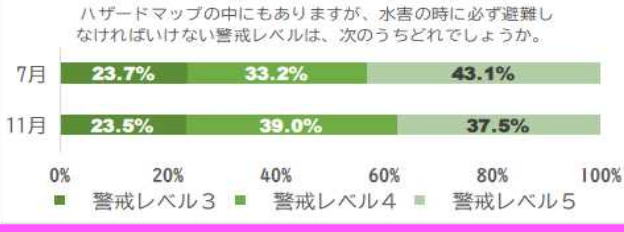
放送大学栃木学習センター所長
宇都宮大学共同教育学部准教授
宇都宮大学地域デザイン科学部准教授
栃木県防災士会理事
宇都宮地方気象台次長
消防防災課地域防災担当主査
さくら市教育委員会副主幹兼指導主事
塩谷南那須教育事務所副主幹

伊東 明彦(委員長)
久保 元芳
近藤 伸也
中川 享子
高橋 好幸
稲葉 敬一
根本 広昭
角田 光俊 ※敬称略

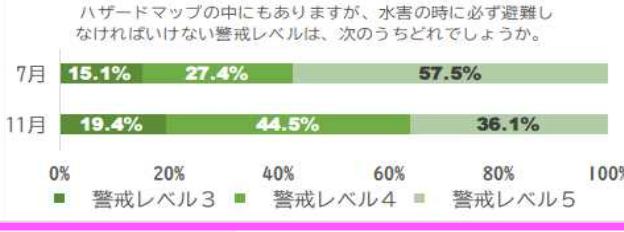


第3回推進委員会

市内小中学校



喜連川小学校第6学年



市内中学校

